
静内ケアセンターだより 2月 18日号

良いグループホームこそ経営環境が厳しい、良貨を朽ちらせるな・文責下川孝志

日高管内の人口7万人切る！ 6万9038人

新ひだか町の人口推移	27年度国勢調査	管内で毎年1400人の減少。新ひだかも年間450程度の減少傾向である。
2000年 28,438人		
2005年 27,265人		若者は町外に出る傾向が強く、労働人口の減少が雇用者不足になっており、農業でのパート労働者、介護労働者不足が顕著に現れている。これは管内全町の問題であり
2010年 25,420人		
2015年 23,250人		

医療・介護、農業、観光、教育等は日高管内の問題として広域的に取り組む問題である。介護については、日高管内で介護職を教育し、職員確保が必要であり、特養やグループホームの入居者は管内一円が対象となる時期が来る。日高は施設農業(ハウス)が盛んであるが、トマト、ピーマン、ミニトマト、イチゴにせよ収穫パートさんが不足している。観光は町どうしが連携しての連泊が求められる。高校は生徒減から間口減、高校の統合、廃校の時代となろう。日高線の維持は難しく住民の足の確保からの交通網の整備が求められる。

将来的には、人口5万の地域としての暮らしのあり方を今から考察しなくてはならない。

日高町=12,377 平取町=5,310 新冠町=5,596 新ひだか町23,250
 蒲河町=13,081 様似町=4,519 えりも町=4,905



川崎市の老人ホーム殺人 介護職の事件ではなく、変な輩が介護の

仕事をしていただけ。普通の人には、給与安くても、ストレス溜っても、3人も高所からの投げ捨て殺人は起こさない。個人的な異常者が起こした事件であろう。

読売新聞のように「高齢者を預かる施設への信頼を揺るがす事件」「知識や経験の乏しい職員も雇用せざるを得ない実態」「介護施設職員によるトラブルが後を絶たない」「外部からの監視強化が急務」には閉口する。介護職員不足や低賃金の中でも、これは氷山の一角ではなく、ほとんどのグループホームや特養等の施設では、研修し職員を育て、資格取得に努め「質」の向上にも努めてるし、常に虐待防止にも心がけている。正しい介護現場の評価がされていないから”なり手不足”なのである。

私的に言わせてもらえば、正しい労働評価をせず、介護報酬を低く抑えようとする介護保険制度の問題である。保育士と介護福祉士がプアワーカーと言われているようでは職員不足は解消しないし、成長産業でもない。



静内ケアセンターだより 2月 22日号

良いグループホームこそ経営環境が厳しい、良貨を朽ちらせるな・文責下川孝志

川崎
転落死
波紋

北海道では質の良いホームが圧倒的に多い！

北海道新聞の1面に「虐待家族も施設も苦悩」と掲載されているが、これだけを読めば施設現場で虐待が多いという誤解をする人もいよう。

しかし、現場では人手不足でも給与が低くても人材育成に努め「質の向上」に努めているし、良質な介護が行われている。現場への理解不足を補う意味からも、ホームは常に開放しており、見学・

研修・視察も受け入れている。厚生労働省・財務省・各種審議会のメンバーもグループホームや特養等の施設に足を運び確認してもらいたい。虐待数は確かに増えているが、それは在宅での暮らしが難しくなり、施設等で24時間のケアが必要な人が増えており、その為の職員数も急激な増加をみている。

それでおて、国は高齢者の増加、認知症等要介護者の重度化があるのに、社会保障費の抑制を計り、介護職員の給与を抑えている。一般他職種に比べて10万円以上低いと報道されれば、介護職を選ぶ人は少なくなる。

我がグループホームでは、職員の労働環境を良くする為に様々な取り組みをしている。職員は休みや研修に参加できるように多めに職員を配置しているし、食事づくりの人を入れて職員が介護に専念できる時間を確保。管理者の仕事負担を増やさないために、事務員や渉外には役員が対応もしている。働きながら介護福祉士の国家試験に毎年チャレンジしている。労働にみあった待遇改善が急務だが、ストレスがあったとしても、今回のような殺人事件は論外である。

